

受験番号	
------	--

令和8 年度総合型選抜1 期

小論文課題

[設問]

次の文章を読んで、下線部について、自身の体験をふまえてあなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

図書館や読書に詳しい京都ノートルダム女子大学の岩崎れい教授は「図書館に行って、どんどん失敗してみよう」と話す。選んだ本がつまらなければ、今の自分には合っていなかっただけのこと。別の本を探せばいい。繰り返すうちに上手に選べるようになってくる。

わからないことは図書館の人に聞いてみよう。きっと、あなたに話しかけられるのを待っている。題名がわからなくても、あいまいな希望でも、本のプロが面白いものを探すのを手伝ってくれる。

日ごろ知りたいことをネットで検索している人も、本で調べてみてはどうだろう。すぐに答えは出ないけれど、ネットには出てこない答えも見つかるだろう。その寄り道や、調べ方を考えることで、思わぬ発見もある。

読書は何の役に立つのだろう。知識が増え、国語の勉強にもなる。岩崎教授は「しっかりとした自分の考え方の土台をつくること、人生の選択肢を広げること」の二つをあげる。例えば、本の主人公の生き方について自分なりに考えて、しっかりした価値観をつくれれば、いじめや受験失敗のような困難を前にしたとき、立ち向かうか、逃げるか、別の解決法か、まわりに左右されずに考えて乗り越えることにつながる。本からいろんな仕事や生き方を知って目標を探せるだけでなく、考えて学ぶ力がつき、選べる道も広がるはずだ。

【朝日新聞 夏休みの読書『世界を広げる「旅」に』より抜粋】